

三津田10回生 「喜寿の会」の集い

光陰矢のごとし、月日の経つのは早いもので、われわれ10回生が三津田ヶ丘を巣立って、はや58年の歳月が流れ去りました。

私達はこれまで広島、東京、大阪と開催地をかえながら、5年ごとに集ってきました。55周年記念大会の宮島には138名が集い、「ハァこれが最後よのォ」と別れはしたものの、「やっぱり寂しいわのォ、5年後じゃ体力的に無理じゃが、前倒しすりゃなんとかやれるかもしれん。いっちょ頑張ってみようや」ってことになったのが2年前のこと。

実行委員会を立ち上げ、如何にすれば遠方から参加してくれる友に楽しんでもらえるかと知恵を絞り、6月8・9日新大阪駅から徒歩5分と歩行距離の短いホテルニューオオサカで「喜寿の会」を開催することにしました。当初は100名を越えていた参加者も、その後、櫛の歯が欠けるように



体調不良、家族の容体が優れないから等と、涙をのんで出席を断念する人が出ましたが、最終的には96名が集うことが出来ました。

両日は、願いが叶って天候に恵まれ、4時開宴を前に、東から、西から陸続と懐かしい顔が集合。

祝賀会では、卒業アルバムから作成した名札を胸にした往年の美少女、美男子は、鬼籍に入った友を偲んでしばし黙

祷、実行委員長の歓迎の挨拶、乾杯と続き、宴は最高に盛り上がりを見せ、2時間はアツというまに経過、肩を組んで恒例となった三津田讃歌の斉唱、万歳三唱でお開きに。その余勢を駆って二次会に移行、予定の8時を大幅に過ぎるまで旧交を温めました。

後に聞いたところでは、宴果てた後も、三次会、四次会と懐かしい友との再会に杯を傾けた猛者もあったようですが、無事全員宿に帰着、事なきを得ました。

翌日は、バス2台を連ねて奈良へ向かい、修学旅行の再現を果しました。平城宮跡、興福寺を巡って昼食会場へ、腹を満たし午後は東大寺へ、5班に分かれて、地元のボランティアガイドさんの案内で大仏殿から、お水取りでお馴染みの二月堂まで坂道を登り、大松明を取りまわす舞台まで足をのばしました。帰路は幸いにも渋滞に遭わず、予定より3分早く、無事に新大阪駅に帰着、名残を惜しみながら袂を分かちました。



無事に喜寿の会を終えて、実行委員一同、無事終わった達成感と友と別れた一抹の寂

しさを味わっています。また会える日を楽しみに、素晴らしい仲間乾杯！！

(蔵本由紀 記)